



里見八犬傳

第貳輯

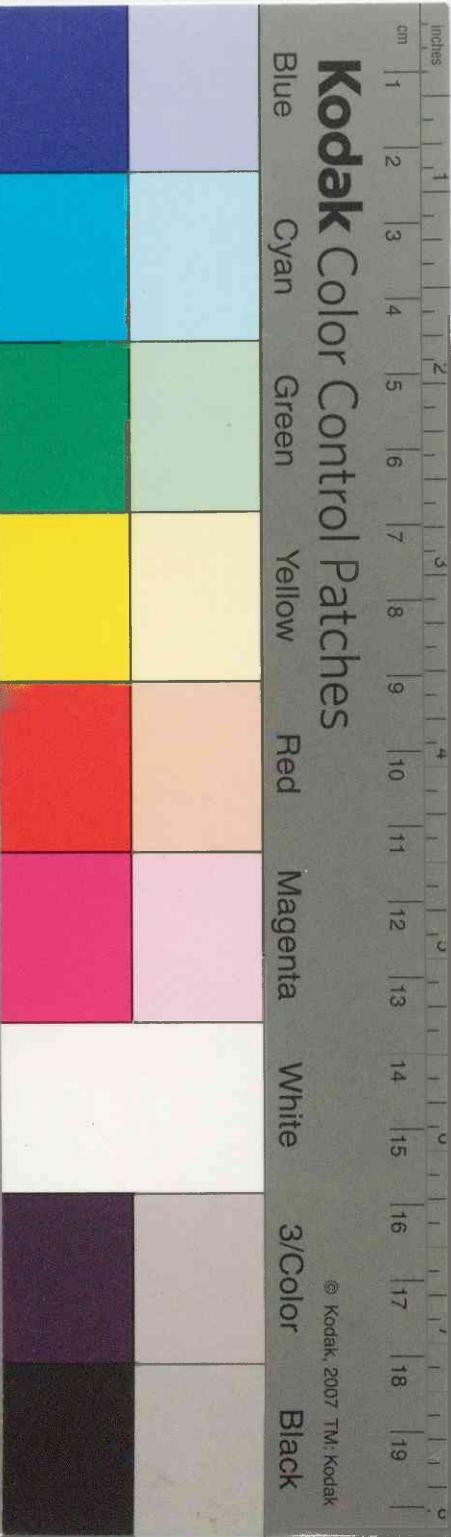
卷之八

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak



inches
cm

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

© Kodak, 2007 TM: Kodak



南總里見八犬傳第二輯卷之三

東都 曲亭主人編次

第十五回 金蓮寺小番作警を駆す
拈華庵より 東客と出む

前卷既に絶え伏姫富山へ入る。十六歳のときより長禄元年の秋より又金碗へ道の大坊ハ嘉吉元年の秋父孝吉が自殺せりと死既に五歳よりつゝ長禄二年富山より伏姫自殺の憂り係卫猛小出家入道志く躬を雲水よ仕し。半蓑行脚の首途せし。このと死た二歳より又伏姫の年をもふ。八十歳にて身もるゝとまへ。大坊ハかの姫よりその年才五の兄もりは立つかゞ長禄ハ三年のと。寛正よりもうと六年より。天正と改元せし。さうして元年のまへて。

又應仁と改め。後に至りて僅か二年。すく文明日と改め。ありけり。應仁の内乱治ま。戎馬の跡趾を掃ひ。名のみをとける華の浴。舊の春皇邊。左へ。稍長。困かづふらうゆるも。この比の事。されば。文明五年春三月。宗全病。亦病。子平。また。あふ。もと。その度の合戦。征もどして。寝みけ。毛毛。寒い。の共。亂。とある。この年跡の。長久。は十八年。おで。繞き。け。ま。ふ。年序を。僂。ま。伏姫の事。あつまく。大行脚の啓行せ。前卷。長祿二年より。今文明の季年。又至て。無曆二十餘年。又及べり。この間。又大塚信乃が未生。已前の貢。と述。この卷。亦復嘉吉。又起る。文明の比。又至れり。後土御門天皇の御宇。常徳院足利義尚公將軍。と。宣正。文明の間。と。武。勝。圓。豊。嶋。郡。菅。荒。大塚の郷。恩。又。大塚番作一成。との。武士の浪人。あき。けり。そ。か。父。通作。三成。ハ。廉倉の管領。足利持氏の近習。と。永亨十二年。持氏滅亡のと。先。通作。ハ。精。悍。き。忠。義。の近臣。と相謀。と。之。

持氏の。を。子。春玉。安。下。兩。公。連。を。護。す。廉倉。を。脱。去。下。野。國。小。勢。き。結城。氏。朝。又。續。待。せ。と。主。従。そ。の。城。又。福。義。又。寄。ふ。の。大。軍。と。う。け。て。防。戦。年。を。重。ね。と。り。よ。も。士。卒。の。ひ。一致。と。く。院。ひ。氣。色。ハ。う。す。じ。あ。嘉。吉。元。年。四。月。十六。日。巣木五郎。が。反。忠。よ。り。只。ひ。り。く。攻。破。す。と。大。將。氏。朝。父子。ハ。ま。と。う。と。躬。方。の。諸。將。恩。顧。の。士。卒。面。も。ぬ。と。と。術。て。古。舊。鞍。突。戰。時。と。う。あ。と。と。と。と。遣。と。討。と。元。下。兩。公。連。ハ。生。拘。ら。あ。こ。の。と。大。塚。通。作。ハ。今。と。ま。益。十六。歳。う。と。け。る。一。子。番。作。一。成。を。招。た。よ。せ。と。息。つ。え。あ。と。ぞ。ひ。け。や。あ。あ。と。波。の。老。が。才。小。生。死。の。海。ハ。ぬ。ひ。う。け。と。百年。千。歳。の。後。ち。で。と。と。渡。冊。と。兩。公。連。御。運。微。く。お。レ。く。と。防。戦。遠。又。合。期。せ。と。諸。將。較。と。城。塹。を。の。ま。さ。ば。階。ア。と。君。奪。を。と。多。あ。え。臣。と。脅。の。死。と。へ。を。時。う。り。さ。う。と。と。汝。ハ。渾。体。う。と。お。仕。ざ。る。身。も。一。よ。び。あ。ゆ。く。拘。毛。ま。き。か。あ。ふ。と。旦。暮。小。賺。倉。と。落。と。

と先汝の母と嫁龜孫はちづくる由縁を求ふ。武朝國豐鳴き。大塚よ
潜せかたつ彼れハ汝もあまろどく。コトが先祖の生國ふく。則苗字の莊園
きよじゆも今みて六名のまみをさぐく地人の有とみまへ。誰う渠ホを養ふ
べ。あとも亦不便のす。汝ハ命うごとて大塚の郷より去り。久が寂期の
をく代も告ぐ。母小仕く孝を盡せ。然しごくこれも狗死ハせと孺君とらう
とくとりと。柳營の薄親族有撃。小金枝玉葉うまく。左右ふくらん
命みへ及べば。とも一方を殺脱。小稿。もん跟伏莫ひむわせ折
り。ハ西公達を倫。とく。すうらん。さはま。大厦の傾くとまニ木を立て柱に。
縛成ら。討毛。とく。止。泉のちく。俱とて。主君重代のあん
佩刀村雨と名つけ。は。このらん佩刀の入。小鞘。さあくの奇特。ミク。屋中。
殺氣。伏含。抜。さあく。刀の中心。露雷留。呪。呪。入を伏。とく。雷電。うき
よ。春王君。小縷。せり。護身刀。よせ。よ。り。孺君。とく。人。ども。
今。かん。佩刀。ひ。と。が。よ。あ。り。こ。と。り。本意を。ぬ。遂。ま。く。遣恨。う。そ。く。
ぬ。に。頼。あ。り。孺君。必死。を。脅。き。ま。い。く。ぬ。ま。び。世。み。の。覆迹。ま。く。一番。ふ。あ
ま。く。宝刀。を。返。す。よ。り。又。替。き。ま。い。う。が。こ。と。ぬ。君父の像。見え。
金瓜主君と。と。ま。ま。す。と。ま。ま。く。お。菩。提。を。吊。ま。と。努。と。陳。畧。ま。く。ま。と。
お。爲。ぬ。う。や。と。現。示。し。錦。の。囊。は。納。す。終。腰。は。帶。す。る。村。雨。の。宝。刀。と。コ。が
と。み。途。與。け。る。番。作。二。八。の。少。年。う。と。い。も。そ。の。心。が。ま。是。く。人。も。く。ふ。も。
さ。き。と。六。猶。も。す。や。あ。り。え。一。言。半。句。も。情。う。ど。恭。く。跪。ま。く。件。の。宝。刀。と

參入收めぬ。ひきの安直。肺教訓。有びを先やがく。ふ忝く。まづく。服齋仕事。ぬ。
小禄ありとこが父ハ築倉殿。其の家臣。る。某寔よ不肖。よどゆ。君
父の忠亮を外よ。足。脱る。承歎んや。さうと名を惜。穢を顧。父子。のス
共。又元地。ふ就。さば。名聞。よ似。く。昌父。よ益。存命。く。母と姫を養へと
宣ひ。も。え。慈。三。某が。身。ひ。も。ふ。ゆ。か。ど。親子三人。が。う。よ。保。承。ち。ん。で。す
推辞。を。そ。ん。と。そ。り。再會。揣。が。れ。え。別。よ。ま。く。べ。某。あ。ん。先。つ。ま。う。ん。せ。あ
て。、親子。の。共。虎口。を。脱。き。ま。く。あ。ん。體。の。威。毛。の。じ。と。花。す。あ。て。目。ら。う。
難兵。の。革。具。足。袖。解。捨。く。ま。あ。せ。え。尾。あ。や。穿。う。え。り。筋。と。筋。め。く。か。ひ
が。ひ。く。落。支。度。を。り。そ。が。せ。父。へ。ち。乾。ぬ。液。の。目。尾。拭。ひ。も。あ。へ。モ。尙。余。と
笑。え。番。作。微。妙。ひ。づ。る。え。汝。只。曾。血。乳。ふ。た。考。み。く。り。う。共。小。民。人。と。争。ひ。や
せ。入。辭。ひ。や。せ。入。と。そ。ひ。よ。父。と。ま。く。よ。親。恥。一。孝。心。う。る。と。固。よ。り。先。期。の。う
お。ま。不。こ。じ。も。難。兵。ホ。よ。こ。ち。難。ア。く。一。圓。虎。口。を。脱。き。ま。ん。あ。く。あ。五。天。親。
子。が。力。ろ。共。よ。奔。ま。る。謀。き。を。よ。似。う。政。ハ。先。よ。や。落。よ。よ。ス。又。後。門。よう。
途。引。う。ふ。よ。支。ま。ん。ハ。そ。げ。や。急。げ。と。焦。燥。声。ゆ。矢。叫。の。音。小。紛。ど。ろ。く。攻
入。の。敵。軍。學。風。の。城。兵。報。も。も。よ。ひ。報。も。あり。名。を。る。き。仰。武。者。ハ。足。不。信
ち。く。風。え。落。葉。の。閃。く。如。く。壇。を。踰。構。を。涉。く。路。な。き。途。不。求。め。く。四。零
八。落。ふ。見。せ。う。緯。の。紛。も。よ。大。塚。親。子。も。辛。く。城。中。を。脱。き。去。親。ハ。子。を
見。く。よ。い。る。竟。よ。そ。の。教。訓。を。く。え。ぞ。子。ハ。又。親。を。索。と。ど。も。あ。よ。一。絶。く
も。く。よ。け。り。柳。の。一。條。の。物。語。へ。筆。輯。第。一。の。卷。端。又。続。出。一。る。結。城。合。戰。
落。城。の。よ。九。里。見。季。基。送。訓。し。く。嫡。男。義。実。を。延。せ。ー。と。是。同。日。の。事。は。て。
彼。ハ。義。み。仗。る。智。勇。の。大。將。此。ハ。誠。忠。續。弟。の。近。臣。官。職。素。よ。り。そ。の。差。あ。ず。
言。私。よ。及。ぶ。と。父。と。思。義。の。ゆ。ふ。方。を。殺。し。そ。の。子。の。よ。う。小。訓。を。の。こ。せ。ー。

あらうハ御付と即を合ひる。かく人の親より慕ふものづれゝる誠なり。却説大塙
番作の父の心死と外ふ刃下く存命べくもあらず。そとを争へんも火急の折
う。志立んとく。父の今果ふあ死なせ。よ一時所爲ふ時を恨る。
親ゆ子ゆ虜と云ふ後悔其れ又立だに。一旦その意は仕まうと云ふ
せんおぞのあらざりや。と云ふと見ゆもや思念。而て城中を脱き出
袖號を擲擲捨て。髪も素そく面を隠し。敵兵ふゝも雜アモ。兩公達乃
ちん所在と。ちくびく窺ひけり。ありまつ候ど君を以て公へおほ。父臣
作ハ。と。敵陣小紛立へ。縛の為体を窺へ。小春王安王のち抱持す。
管領清方少佐車長尾因幡候がく。小生拘ら。軍散どく。後。小彌倉
と。せひ。北門ハ獨坐を変容を窶く。先途。伏見と。たる。宿は五月
十日。あも。及び。清方則長尾因幡候を警固使と。信濃。政康を

副使と。而公達死ゆ。而て。牢輿。衆と。ようり。京都。上せける。
まよ。大塙近附。とのと。又政康が。後率。みよ。而て。陥。西。兩君の
あん供。一。きり。と。あかむ。して。道中。よく。竊。と。り。よ。下せん。と。豫。く。謀。ア。と。う
え。宗徒の兵士二百餘騎。四面八方をうち。かど。夜。通宵。本陣。火を
焼。明し。鐵隊の火長。送代。夜行。露。走。と。由。御。せ。ざ。れ。近附を
ひ。の。不似。と。す。小肺肝。を。摧。く。力。の。う。絶。て。そ。の。隙。す。ア。け。り。と。ゆ。と。ふ
ゆ。き。み。ち。の。よ。き。ゆ。き。と。と。と。と。
兩公達ハ。五宿六宿と旅宿と。かまひ。かる。ト月の十六日。ふ。青野。原と過り
多。浩。丸。京都。將軍。より。あん使。あり。兩公達を。今。さ。ふ。都へ。と。それ
や。か。る。み。路。次。み。く。も。ゆ。る。殊。一。あ。ゆ。せ。あん首級。どの。ほ。せ。よ。と。信。仰。下。され
ば。と。長尾。ホ。と。正。義。り。さ。と。ば。と。く。矢。濃。路。る。博。井。の。道。場。金。蓮。寺。小。あん
輿。を。打。入。と。させ。そ。の。夜。住。持。を。戒。師。と。く。戒。の。エ。く。と。ろ。行。ひ。矢。来。の。四。面。ふ

舟火燒し。春王君安王刃を敷草の上。手推のばく。竪期のよ。巡告
あり。嘆息の。退けバ。住持ハ。余殊様。ゆく。問進。進。叮嚀。小念。と
授。春王君ハ。大入へく。安王君ふうち對ひ。因。と。そあり。その日より。
かるべく。かのく。あと。之。バ。前月結城。みく。氏朝。を。下。か。と。
此。すが。討死。せ。いくと。あ武士の初月忌。ふ周。あひら。同胞。が。そ。
ひ。日。ふ死。ぬる。せあ。てもの。罪滅。ふ。死。か。ある。じる。數。死。ゆ。と。う。ざ。あ
多。が。うち。点。頭。西方。と。か。淨。土。と。や。ん。又。上。母。君。ま。一。も。と。人。海。て。ひ
へ。元。と。ゆ。と。び。よ。と。親。遺。ま。る。の。な。ば。何。悲。と。か。く。と。さ。れ。冥。土。
の。路。ち。き。ほ。の。心。不。そ。約。り。後。ま。あ。ふ。後。ま。じ。と。送。水。凍。め。激。き。く。
騒。を。る。氣。乞。る。ま。す。う。感。當。波。う。も。合。を。や。目。を。閉。く。佐。良。バ。長。尾。が
老。黨。牡。蛎。崎。少。一。郎。錦。織。頬。二。切。鞆。掛。よ。刃。を。引。搜。し。も。へ。後。方。も。そ。ら
よ。を。序。と。自。死。見。れ。と。彼。あ。人。と。長。尾。が。ま。と。政。康。ホ。ある。痛。ま。と。た。る。と。ふ。
鼻。うち。か。あ。が。難。兵。す。く。禮。の。袖。を。濡。り。け。り。況。や。人。の。後。方。よ。を。と。この。ゐ
併。を。え。ま。あ。大。塚。直。化。ハ。声。を。呑。む。波。ハ。泉。の。涌。じ。く。胃。脹。と。腸。あ。ま。某。
と。か。い。と。名。告。ま。べ。丁。そ。あれ。名。告。れ。ぬ。主。従。三。世。の。辭。別。仰。と。の。木。を。恨。つ。の。ま。
又。せ。入。ま。ゆ。あ。死。す。小。憤。然。と。く。そ。入。や。二。面。六。臂。あ。と。べ。と。そ。あ。の
期。と。及。び。公。連。死。枚。ひ。ま。唐。ば。う。も。未。と。ど。殉。腹。切。り。人。ハ。易。け。き。ど。も。
せ。あ。く。當。座。の。離。敵。長。尾。を。奪。り。と。死。人。の。ま。彼。れ。ハ。間。遠。く。り。
ま。ま。ん。と。そ。の。途。う。と。か。牡。蛎。崎。錦。織。と。共。主。君。を。害。き。る。怨。も
ち。下。這。奴。ふ。あ。う。と。め。討。果。と。く。の。で。や。黃。泉。の。か。ん。鄉。道。す。仕。く。ん。や。肚
裏。よ。尋。思。の。脣。を。固。め。刀。の。鞘。行。舐。湿。く。西。へ。遠。と。東。よ。居。み。や。う。
か。近。づ。ん。と。と。向。程。み。二。入。の。大。刀。と。矢。声。を。う。と。昇。き。と。夕。の。光。ふ。躊。む



べ。兩公達の心頭顱、礎と地又落。因化吐嗟と開縫せ。極言固の武士を
踰踰と。矢来の内又跳へて。兩公達の心傳。大塚通船。あふあり。恣乃
刃受よや。と怒の大音。名告。尺九寸の大業物。抜き尖く錦織頭
ト。二尺八寸より乳の下ち。もふうとさんと砍仆せば。牡蛎崎小二郎太郎
驚き。原來禪者脱さと。含まう血刃内に處くぬと。通船が右の
脱水も済む。砍落。弱るとテ。斧。疊。細頸。蘆石とうち落せ。ふ
陣笠被。一個の雜兵群をさうぐ。兵士を推すけ。搔きけ。船が如く。ふ
失來の内へ進へ。兩公達の心首級と。左ひ小監吉禪。よせ。通船が
首え。お。改。監吉を口小楚と。箭。を。左ひ。腰刀。ぬく。色
えせ。それ蛎崎を。幹。竹割。は。砍伏。し。左ひ。う。を。せん。と。あ。を。遠。を
の兵士。あ。と。散動。く。近。日本。せん。と。あ。を。遠。を
前。馬。人。少。見。左。右。そ。へ。進。み。ゆ。そ。の。隙。み。件。の。そ。の。こ。へ。陣。笠。す
か。小。機。遣。栗。持。氏。朝。臣。恩。顧。の。近。臣。大。塚。直。惟。二。成。一。子。番。代。一。成
十六。歳。親。の。教。訓。固。辭。きて。戦。場。死。腹。き。あり。父。ふ。へ。あ。せ。ぞ。され
亦。君。父。の。先。途。死。果。ん。み。か。と。の。聲。す。く。來。ゆ。か。ひ。小。親。の。仇。人。ひ。ち
と。く。り。と。名。く。ん。り。の。あ。く。拘。よ。や。つ。と。喚。と。く。因。憐。ぬ。估。と。く。ん。く。原
來。結。城。の。残。黨。が。早。晚。紛。き。入。く。そ。速。莫。凡。も。え。た。と。く。童。が。分。際。で。
何。わ。ど。め。や。ん。の。あ。く。拘。よ。下。知。と。く。義。と。縣。の。士。卒。ひ。と。く。ふ
え。と。矢。来。の。内。込。へ。と。ん。と。き。を。ゆ。か。公。真。額。梨。割。軍。切。秘。術。を。竭。き。せ
煉。の。大。刀。風。壁。ベ。草。の。優。と。ゆ。く。又。秋。葉。の。散。る。ご。く。そ。の。刀。尖。よ。向。へ。ゆ。め
う。て。か。深。瘍。と。負。ぬ。う。る。と。け。り。故。あ。う。ま。番。代。が。刀。ハ。名。小。ち。村。兩。う。ま。が。
穴。を。き。じ。あ。ま。ざ。が。ト。か。刃。の。奇。特。行。ゆ。と。うち。振。る。と。び。力。尖。よ。涌。出。る。水。挿。霧。の。ご。く。四。角。八

方ふかよかと。燒つて。芭蕉火。こまがぬふうち滅さむ。時一も。畢
月の天より。各の雨雲いやかきあり。十六日の月夜。法暗夜と
さる。長尾が士率へ同士擊して。瘞を破り。やまと。番化を
この光景。天祐といよく。乞紙。殿。龜。矢來の外。御と
出く。勢の中へ割入り。透衣。宿題。墓原。薦を潛す。溝を越す。
往方。もあま。どり。みけ。現由。大敵。事。み熟。長尾。れん。た。
名劍の奇特。ふゆ。無火。よし。滅き。と。瘞者。を。擱。剥。春王安王の
え。首級。を。奪。ひと。と。面目。を。失。ふ。み。う。さて。あべ死。よ。あべ。死。よ。
京都。使者。と。あわせ。且。室町。ね。軍。へ。縛。の。姫。訴。まつ。その夜。より。
八方。へ。部。し。日。毎。番。往。が。往。方。を。索。求。と。ど。そ。そ。と。あべ死。よ。を
ぎ。と。徒。ふ。日。を。送。る。や。京都。へ。す。せ。く。る。使者。え。と。來。て。序。教
書。と。と。生。と。死。と。因。幡。収。參。と。受。と。て。み。う。り。共。は。舞。見。を。を
略。春王安王。が。首級。を。奪。ひと。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
既。か。殊。果。と。
長尾。内。幅。か。今。度。の。軍。功。を。損。思。食。そ。の。罪。を。宥。ら。に。織。倉。へ。罷
下。く。清。方。小。告。志。せ。残。當。穿。鑿。と。べ。た。者。也。仍。執。達。如。件。嘉。吉。元
年。五。月。十八。日。斯。波。義。淳。等。奉。る。と。竟。あ。と。長。尾。主。従。微。笑。と。
ち。と。て。安。堵。の。心。と。死。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
士率。の。亡。殮。さ。入。金。蓮。寺。み。葬。果。て。次。の。日。樽。井。と。覆。足。と。縗。奢。と。投。て
還。り。け。と。長。尾。ホ。が。う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
の。覺。期。の。忠。孝。の。誠。を。獲。ト。せ。ゆ。か。の。神。明。佛。陀。の。冥。助。ス。よ。り。け。ん。か。ぐ
一條。の。血。路。私。用。ま。く。金。蓮。寺。公。暨。と。去。東。を。望。と。終。夜。名。と。ご。も。お。ら。ぬ。

山路まちかずからひづれ。樵夫けいふのかみ。細道ほそぢたどる。天あめを明あけら。次の日のひも慙くじけうへ。
只管ただすよまつる。十七日の黄昏ひるがれより。吉蘇よしその御坂みやざかのよろこき。夜長嶺よなれいの麓はづきみ出だす。この行程こうりょうを數かぞえまく。樽井たるゐより北餘里ほくよし三十里さんり。廻まわうべ。ナア。
ナア追入おひりへからじ。とすべく急地きゅうじひ放はなく。足あしの疼痛いた。よほど外ほかと
見えぬ。絶瘓ぜつとうみど。五六ヶ所ごくわい。鮮血せんけつ。衣きぬが浸しみたぶ如い。以よ昨夜よのよ。

まことに。食くひ。走はし。激さわぎ。道次どうじは左ひだりも息いき。君父きみしゆの元もとを隠かくえ。苦痛くつうを
忍しのび。彼此うかがひと便宜べんてんの墓所は莹を求める。この札ふりへ里遠さととおを山さんへて進すすう。そ
雲くも近く。峯みねへ翠みどり。水皓みどり。向上むか。青空せいくう。削くずさう。直下一直。碧石へきせき
賈鑿くわく。夜牙よが。似なまく。目めか視む。佳景かぎやう。あくね。松まつ。圓まつ。追おまう。歌うたの声こゑか。疑うなづひ。嘯うなづく。鳥语とりごゑ。憂う。懲うなづる。

む交まつうるを。とく。山路まちかず。山路まちかず。山道さんぢ。よけ。もくづけ。十七日の
月つきの懸けん山さんの端は。升のぼる。石垣せきがき。締し。遠とお。白屋しらやのほとく。あよけ。庭にわ
門もんの諸折戸よしりつ戸。半扇朽失はんせんくし。せとく。荒あらら死しまの孤館こくかん。今宵いまへまく。不足あ。
休やす。一硯いつせきの糧盆りょうぶんを乞こめ。とつべ。庭にわ。進すす。ひづれ。月つきを燭ともす。とてかうされ。
みえ。一字いつじの田舎道場いなかどうじょう。持佛堂じぶつどう。もや。檜檜ひひ。檜檜ひひ。檜檜ひひ。輪板わいばんと額がくす。小
柏草ひのき。壇だんの三等さんとう。掛かす。そ色いろも。漏雨ろうい。春はる。滅めつ。もく。幽ゆう。モ。繞のぞ。もく。其その心
より。まき。墓所は莹。石卵塔せきらんとう。あま。こあり。番地ばんぢ。とく。う。君くんへ
く。ゲ。か。木。頬ほほを瘡うずき。よ。こ。究竟きゅうけいのれ。う。と。明あ。地ぢ。由ゆを告め。も。そ。ま。く。
か。み。と。う。け。引ひ。べ。え。も。菴主あんしゆ。み。ち。下。せ。び。と。く。葬ほう。玉果ぎょく。と。後。ふ。と。そ。首。が
え。も。と。深念しんねん。く。足。を。朝。潛あさぐ。び。か。く。あ。ち。と。も。死。さ。ー。視。け。が。持。佛。堂。の。美。貴
こ。き。の。ひ。う。ま。子。の。下。か。一。枚。の。鉢。そ。あ。り。よ。充。物。獲。つ。と。引。手。肩。ふ。も。う。掛。り。墓。所。と

越後。こそ何れより葬せんと左邊右邊をえぐまし新葬ともぼくて石を
告ぐる一壁の塚あり。このほどうの壙をコトラム。掘發をふ便アモウシが。
この斬葬と推並ベテ。もとある完を掘アニ頭を深く瘞セテ。舊乃如
くお壙を抜ひ蹠をそ合當。一念に果て身を起。鉢入。養子のちと
返はよ。裡面より人のあアヤアヤ。維と外は声もせず。かくて夜漏の方み
立より。ほとと戸を敲き。嘯。此の菴主はあやえん。と。山路。日を
まく。鐵つゝと行へり。素より慈善をあす。と。道場。と。そ
乞まれ。今宵はあらせま。と。といひ。戸と推廻。けふ菴主とも。す
あれのへを。と。ひだり。一個の女子。その年ハ可二八。即ち。あれど
鷹蘭。露が合ふ野の花。自らかゝ風情。獨孤燈。玉。對ひ人
まち。ひづる。あり。ちうう。今番作が。門吏。戸を推廻。と。進み。ふ
そめ爲体の異うふ駿丸。あそびく應答へえせむ。あう。と。采
目。戊午。と。子ハい。堪。も。や。あ。えん。衝と立。納戸の。と。避人。と。うち
番作ハ。處。と。喰。と。が。女中。さ。の。と。駿丸。も。ひ。そ。こ。且。不。山客。夜盜。よ
あ。と。き。の。み。如。此。と。の。と。テ。ろ。す。と。親。の。仇。人。を。擊。果。と。更。よ。仇。人。の。援
ま。き。殺。勝。と。ま。つ。の。え。と。と。き。の。の。終。す。と。餓。勞。も。と。あ。く。と
石。を。殺。勝。と。ま。つ。の。え。と。と。き。の。の。終。す。と。餓。勞。も。と。あ。く。と
の。の。の。と。一。碗。の。飯。公。裏。と。宿。を。辞。一。夕。と。是。再。生。の。供。恩。ス。ア。リ。吾
つ。の。だ。う。と。も。野。心。る。と。疑。ひ。及。釋。と。と。ひ。渝。と。腰。刀。を。右。ひ。取。て
後。方。ふ。推。遣。り。養。子。の。上。と。進。登。と。件。の。女。子。ハ。あ。そ。く。行。燈。の。灯。
さ。と。向。く。番。作。が。形。容。を。つ。く。と。足。く。歎。息。し。尚。年。少。死。方。が。る。人。世。言。を
數。多。る。途。の。難。義。と。杖。ひ。あ。人。ぞ。只。一。碗。の。糧。と。惜。て。強。制。數。待。と。う。ハ
あ。候。ど。あ。人。こ。そ。が。宿。所。か。待。と。見。ま。と。く。道。場。と。固。と。田。舎。の

事あるも菴主の外又成る人なし。猶又少くも亡親の墓余りもあらず。
 ありが菴主の法師が喰ふとちとよべてそまつとからま車小に。食道へ大
 井の鄉までゆくも貢省みへくとある。もぞうか移そ留守してよどひ
 るみ固辞がくと。趾あづくアマリノ脚。今しきと俟やどみ日よりちや
 暮るをきは小捨てかへる。還よどむせんじゆもすく寝かしらか。もぐ飯へ
 あつさうがく。アドハガモス。任せざ。とりが菴番地使のあいどりりくそろ
 び。理りなきども菴主の還ひやくとんとく。轆輶の空船を救ひれど。これ
 ある枯魚の市小售どん人を救ひ出家の奉願。菴主小おアカのハセ
 ノ。身を比ひ。某よりくひ輝べ。任く。饑渴を救ひゆくと乞求する。小推辭
 き。山折敷の麻布帛うち掛かる。菴主の碗をそぶまく小番地がわと
 てあきらめく。山摺み藤蘿せ。飯被を下せく堆高く盛そひ。そと乾菓
 あくとの免麥。時よりとくハ美味珍膳皿。塩盈玉味噌。口濡を
 ほ。中と免穀の限食竭るや。渝く食一畢。欲しきよ。公述語か
 遣す。をうな子へと。納め。中と客入饑渴。救ひあらま。菴の苗守み
 り。足。うち。共。今。背を曉。人の疑ひ伏り。せん。とく。如く。ゆた。身
 と強面。の。耳。ゆわ。け。袖。あ。あ。あ。け。く。臂。さ。伸。と。見。刃。立。く。の。か。く。數。个
 す。所の金瘞あ。あ。のが。即ち。臥房。ふ。寝。と。と。行。る。然。う。せ。と。あ。べ。き。そ。の。疑
 ひ。入。も。そ。と。人。枉。と。一。宿。曉。と。更。餓。と。腹。及。縛。ひ。と。今。一。ト。え。と。疲。勞。を
 罪。と。ひ。と。あ。歩。も。ゆ。見。が。夏。の。夜。み。ま。短。く。初。夜。と。だ。こ。ま。不。裕。も。る。菴。主。へ
 還。す。ま。ひ。う。へ。枉。と。一。宿。曉。さ。と。見。と。地。更。さ。り。の。ま。く。見。え。と。推。辭。か。移。ひ。く
 え。く。歎。息。と。も。便。り。を。あ。め。み。だ。よ。そ。と。あ。下。み。移。が。ば。う。人。こ。も。か。く。そ。

おん身みがあのれみ任せまへあそあと山寺さんじより宿殿しゆでんとりふみをす。枕元まくらもと本もとの心こころよ今宵よは山里さんりのうちるるみみ蟻アリの絶絶てを下さなぐ。とみみ番ばん俗ぞくうちを笑わらう理りさく宿しゆをとて得えたる歎かなしきとみみ小縫こび死しまふ。畫ゑーがとま誠まことに女中の賜まことにのえめかとまとまりひきとまやくは左さあまとま右うあまとま子こハ駆とく指燭さしゆくとまとまりひきとまやくは左さあまとま右うあまとま隔は亮は推しせんと持も佛堂ぶつどうへと寝ねむとま。

六
第十六回 天女乃廟てんじょのみやは夫妻ふうび一子いっしを祈ねる

却脱大塚番おほつかばん作つく成虎じゆとまとま一晉夜けいや驛驛の程みちを極きわつけど不疲勞ふひろうとまとまのみの隕痛いんとうとまく通宵とうしのも愁不眠しゆふまんとまとま枕まくらかよふ松まつの声こゑ、漢かん洞どうの音おととまがくゆうとまく小目こめ睡ねえ紙門隔しへんとまち禪ぜんの声こゑとまく小嶽萬光こだくまんこう竹たけを敲なぐて熟

聽きハ老おけと男おとこの声こゑえさとまとま菴主あいぢゅへかとまえ渠くわ何なくひづみまあとまんと耳みみを澄すとまく仰あく稚わらわ忽き地じ女子じよの泣声なきこゑとまくそくせつにとまくおんうり。衆しゆ鬼きと刃とく殺人さつじんとまく情きうきとまくといの正ただとまく宿しゆ貸はす。吾われをとまめま一女子ひとじよ。原来菴主あいぢゅは破戒はくかいの惡僧おぞうそう削くずき少すくな女めを妻めふとまく彼かれ奴やつとまく食くふ旅人りょじんとまく。竊ひそみ殺されとまく物もの死死とまく山賊さんぞくとまく君父きみふの怨お復ふ。恥はずを雪ゆめ危難きなんを懼おきて。あまぐまうふ阿谷あがやとまく山賊さんぞくのぬふ死死人じんや先まへよとまれ入い伏ふ征せいをあまくよとまく轂とく出で轂とくとまく決けて些すこの騎きとまく竊ひそみ起おく帶たに締し刀とうを腰こしふかくとまく。紙門しへんのほとまく潛くわひとまく。圓圖えんと乃同のう隼はやの容ようと廻窓まわまどる。その年四十あまりの惡僧おぞうそうもとまく一枚まいの菜刀なべとう揚あく。女子じよと對たいして威いきら賺まないと定さだふ。僧そうのえ孫まごとまく外ほか僧そう人じんと白しら魂たま。



十四

清風閣



女子へこまへ禁あへど髪うて秦へよと泣告心既小顛然うる体ふ番地へ
聊々疑ひ毛紙舟を下と蹴りぬく。庖洞のぐれ跳出山賊とぞ残殺さん歟
コトヨカツハ波を殺すべし。一罵あへど泊かまび。惡僧大狂ようち驚死拿ふる
刀を因りて砍入とぞ脇巻の下を潛り脱々足矢免へ。腰眼のあこまへ
敵と蹴る蹴らもと前へむろくと五六歩走り出と。ゆうやく水踏駐まう
かくも突からぬ右へ流し左へじよ。數回身懶く疲勞とね張つけへりそ
竟ニ刃をうち落せば惡僧のよくあら憚く。逃んとぞとく。番地ハ菜刀を
なぐと揚ぐ。賊僧天罰もひきと罵る声となり共よ。あゞせうけらる
刃の電光脊背公然と瞬かう。各所の痛瘡。よ。零要時も沿邊と惡僧へ苦と
叶ばく。仆や胸膈を免め刀尖刺つてぬれり。引抜菜刀血を揮して刃と
拭ひ解きて逃ゆる。伏沈とぞ。女子又對りて眼涙聲をあり立
故へ甲夜又飯を惠み。一碗の恩ある似う。又賊僧がかり奉り。これと般
えとぞ。禁め。とへ側隠のひすきとも。この賊僧が妻とぞうて見るまで
りの入を殺せ。是も亦えくとされば脱きぬ天の縁速よ首伏く。
身をうへ。とぞ。とぞ。身を左右よよせく。時を限りく。小賊ホグ。かくはまもく夫のあふ
心のあくよも。よもよも固まつて參りのふくと。といづせもあへど冷笑ひ残
翁復入とぞ。没がぬ月中。よ。かくはまの伎俩よ無んや。告げへれりそ
りせんと打晃を某刀の光と共に退化。中よ俟ひ。ひとあはと。とへた聴ぬ
名の刀大何れも力と。黄縁と。頬わ肩もあよ。竹の雪が折う。風情よく。右
手伸し。左を外衝。片膝立ち。身を反らし。後ふ汝不外處。死番作もあは
逃さず。と。奪べ身を拂ひ沈み立んとぞ。且、頂の上に水の刃。脱きぬ

懷^{きづ}へさへと間もき。砍人^{かにん}と進む目前^{まくまつ}へさへと一通^{いつ}つけとて凝ひ
敵^{あだ}へゆけと見えや。と西のひか引延^{ひきのべ}へる命毛^{めいもう}の筆^ひふ示せしをあはせ素
姓^{うぶ}番^{ばん}作得^{せいとく}と透^{とお}して。名^なうど刀^{とう}をとよと直^じ。あらぬうた書状^{しょじょう}の名印^{めいいん}
父^{ちち}妻^{めい}賊^{ぞく}婦^ふが艶^{えん}書^{しょ}致^{いたす}と名^なふと似^そぞ勇士^{いじき}の遺^い書^{しょ}。かうとをわらふ。その
情由^{じゆう}遣^けと身^みを切^きう。刃^{のこ}を席^{じき}薦^{すす}不^ふ突立^{たつて}。膝^{ひざ}折敷^{しり}と目守^{めし}をう。
當下^{とうとう}女子^{じよし}へ一通^{いつ}と卷^{まき}をうなぐ目^めを拭^{ぬぐ}ひとがお似^そけとく道場^{どうじょう}乃^の苗守^{なえ}
び^ひ同^{とも}よ今宵^{いま宵}の尼^み難^{むず}搗^うと加^へておん方^{かた}がうくよ。彼^{かれ}とうのをあ理^りふとぞ入^る
醫^いむかようろぐな。抑^{うそ}りとも御^ご坂^{さか}の人^{ひと}木井丹三^{きいだん}直秀^{ただひで}が女兒^{めのわらわ}をひそみ束^{つか}と
喚^ひすとおのふなり。又直秀^{ただひで}へ簾倉殿^{まなぐらどの}の恩顧^{おんくわ}の武士^{士官}をうながす。持氏朝臣^{じじ}
のちん滅^{めつ}じ。兩公連^{りゆう}の結城^{ゆうぎ}の城^{じゆ}へ肩^{かた}籠^{ろう}らせうべより。伊^いヌとそぞまく御^ご坂^{さか}とうち
起^{おき}。少^{すくな}勢力^{せいりき}僅^{すくな}く結城^{ゆうぎ}と馳^かか^よ合^あ戰^{たたか}。年々^{ねんねん}累^{たまつ}を積^{たまつ}み。孺君^{じゆ}也^わ

此運^{このうん}むくせぬづど。のぬづ月^{つき}の十六日^{じゅうろく}ふ結城^{ゆうぎ}の城^{じゆ}を陥^{おと}まく。名ある人^{ひと}
カ^かる共^{とも}不^ふ父^{ちち}直秀^{ただひで}も夢^{ゆめ}見^みゆ。とこ^{とこ}その今果^{いまご}の遣^し書^{しょ}。落城^{らくじゆ}のそ乃^の旦^{あさ}
家の老僕^{おき}お資^{しき}し。御^ご坂^{さか}へ還^{もど}ひ。母^{おやぢ}ハ去年^{さうとん}よとそうとこの天^{あま}を瞻^み
仰^{あお}つて。物^{もの}名^なひ果^ごへ。病^病よ病體^{たい}ひく。命^{めい}危^きをとも折^{たた}き常^{じょう}の風^{ふう}乃^の
便^{びん}ちて。結城^{ゆうぎ}の没^{ぼつ}落^{らく}父^{ちち}が寂^{さび}期^き。老僕^{おき}え。痛^{いた}疾^き負^うひ入^る。
途^との疲^ひ労^らふ。亦^よ活^はづもあよどとく。殉^{じゆ}腹^{はら}切^きく即^{そく}座^ざよ落^{らく}命^{めい}。家^{いえ}よ仕^は
奴^{やつ}ふ。縁^{えん}坐^ざの替^{かわ}ひそむえ。憑^{のぞ}きう。看病^びか後^{こう}親^{おやぢ}と子^こが音^{おと}みのを鳴^な
ら^らを何^{なん}せんま^まをうそんが身^みをう。看病^びか後^{こう}親^{おやぢ}と子^こが音^{おと}みのを鳴^な
聲^{こゑ}蟬^{せん}の秋^{あき}をも俟^{まつ}ひよとく。母^{おやぢ}ハ本月^{いよいよ}十一日^{じゅういち}ふ率^{すこし}と^と縛^{しば}絶^{ぜつ}。身^みを^を落^{らく}
の車^{くるま}なども。とくとく親^{おやぢ}里^{さと}人^{ひと}ホ^ホが好^{すき}意^いよよとくとの暎^ひ昏^{くろ}ふよの道^{みち}
場^ば不^ふ送^{そう}り候^ま。とくとく父^{ちち}の初月^{はじ}忌^み。けふえ母^{おやぢ}の初七日^{しち}入^{いり}むる乃^の

布施齋も。この木門は親の墓所である毎日菴主が殷勤に慰め
 あらが寝て庵の苗家に住用して出でたつる。どもそのうへ甲斐の向。
 賢ひも又古よりこの道場を拈華といひ菴主の法名へ蚊牛とせん。
 彼此人の帰依僧多く。各家も亦擅越すとへ聊疑へすともうく清き
 隘不推辞。移く菴を守く日をくじ。菴主が遷く後も稍ちろありての
 わるよし。あらん。浅よりれかみこの法師。何の絶不^レ懸想も。こどもを一宿
 苗人をふ。詫歎く苗家へ逃へ小夜深く比かりある。こどもを捉へて艶
 絡。法師ふくえあらまじ。嫌けさうだ。又月夜も阻もてほそくへよせ著
 と。モモテ。果ハ威の菜刀をうち同じく挑む。その声^ノえよ高うういて。ひごとを
 ちかく。小疑れ。ひげを殺さむ。只見過世の業因。欲仮。京子にて瘤と
 貪玉危うく。口づく。苗め。強く姫さんとせて冥罰ハ立地すと。おおお
 あざ。ひと悲むへとふうん。さとひも。お宿せらる。代菴主よ告るみ
 皇氣。縛りやあよ多うの死樂り。とく。うへが外よ入へあらとおほ
 ゆりさん。おん身み。思惟。そひ疑ひ。散りゆ。とく。うへが結城
 の残黨。他の凋落を自分の利ふて。拂く都へ幸んとる。脱ると。路へ行
 人を殺す。物を畠る。賊婦梵妻を。どうおは被せふ。濡衣うそべ乾^レ。
 あら。とく。亡親の名を汚す。とく。へとをあひ惜ふ。金無^レ
 多う。とく。ひき目を押す。雄く死少女の物^ノふ。番僧名と小摺を
 拍。原来おおおへ井丹三直秀の息女。うけ教今示さま^レ。一通。三直秀
 とく。続く。同名異人。うか。とく。法^ノ縁由を。おあおぐ。とく。まごと名を
 告ふ。おおお父へ。兼倉贈第の近臣。大塚西作三成。子ふ番僧一成。よし
 まう。両公達よ傳^レ。菴城の下を參す。おおお父とよお父と共ふ後門を

固や。他良き相潭少矣。かくと落城の日未及び。聊もはあれば某へ
父、之共、東口を遁て、兩公連のめ、路を慕ひすり、檜井やを、年々、
孺君其れより數々多入。父臣化ゆ討死せり。某當坐小親の仇、牡蛎崎小
郡より、久々死難と免。君父の首級、斬棄ひとと、血戰一ぐ吹元を脱れ
昼夜、二十餘里既而過よ。事ふを、二頭を瘞んと、呑みわたり當寺の
墓所。あく究竟と新葬のやうとの壙を掘、藁し鷄又其趾へ埋果て。是宿
是夜、早とて、是夜、固よ。且々、落人より、吹く風ふ尚か然む。嚮み法師が、
休あり。不よ。事よくも猶伊豆。是夜不害をりべと田へよ。是夜、需要時を
禊殊せじ。早とて、是夜、禊せり。おのが魂忽よ似よ。是夜、
鬼身を取ひ、もとほじて、恩僧を除せし。是夜、冥罰を受し。人死ひ行とせん。お
男小意あるがゆく。ゆとりひぐを筋え。龍城の日未直秀ぬ。是父は治東
ちく孺君武運をうせゆ。東西無異、無一無二。是夜、一個の女兒あり。
子息の帰、進せん。是夜、そ公私の幸、必よ賜さんと契。親へり、
ともかく、おふる遠ぞ対死し。是夜、予どもらへのう共、必死を脱せ。各
告あつて、是夜、命え。誠、是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。
そ是夜とあつて、是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。
と人のえ。是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。
是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。
是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。
是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。
父の今東よ。是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。是夜、命え。
憾とぞやうえ。からず契のいふて、君と親との三の頭顱を瘞り。一
その側うる新葬へとくがゆの墳墓をそそぐ。是夜、命え。是夜、命え。

妹伏とつゝももづくふ。まはよすとく存亡をあく。夫と共ふせまわる外
情願へうなぞとく。殊みとく。自らひれ。とひめを頬がうち。掩へ。妻地使そ
感嘆し。おまきあ。男姑塚を並べ。両公達の迷骨を守り。のまよど。約
束かく。妹と伏ふ。環會せぬ。と。將親のうゑ。環の債をぬ。と。疑ひ
す。かまびあん方を携く。深く。宿世を潜ぐ。然まづ。ちかく。親の交ゆ。かく。
つま。夫妻とりうむ。ひる。十二月の服果く。又更ゆく。夫婦とりうむ。と。心へよ
す。東へうち。点火す。と。如右ぞ。入。あん方既。又。蚊牛法師を殺す
事。が。人。も。ぞ。も。ん。後。の。決。危。る。と。ど。や。ハ。シ。久。久。坂。う。る。と。家。み。を
伴ひ。さ。信濃。う。る。施。替。よ。く。め。く。の。由。縁。あ。う。特。ス。亦。彼。の。温。泉。ち。力
き。を。瘡。又。効。あ。う。と。う。ん。む。一。淨。見。原。の。天。皇。は。湯。又。行。幸。あ。た。ん。と。く。輕。部。朝
臣。足。瀨。等。よ。行。宮。を。造。じ。ま。す。今。と。時。湯。と。ぞ。唱。へ。物。か。薄。見。り。か。ろ。だ。小
花。麻。の。里。へ。と。勧。ま。不。番。作。こ。と。不。障。り。く。天。あ。り。ぬ。程。ふ。と。の。ほ。う。更。ふ。よ
う。と。よ。う。と。か。革。庵。を。ま。と。出。ゆ。と。僅。ふ。五。六。町。遙。ま。後。方。を。見。え。と。見。
道。場。の。ま。ふ。火。火。え。出。く。や。先。え。ま。あ。と。ま。り。ふ。東。へ。二。重。不。驚。か。た。そ。
あ。え。驚。か。る。出。と。た。よ。心。慌。て。火。火。滅。ふ。ど。さ。り。不。過。失。ま。く。け。り。と。ち。ち
ひ。や。の。だ。ん。ま。き。咲。く。火。番。沿。へ。せ。ま。と。ほ。笑。そ。と。手。東。と。み。る。驚。か。ま。と。そ。は。革。庵。へ
え。り。山。院。ふ。く。邊。野。遠。住。佳。境。う。と。ど。も。乱。う。世。清。僧。稀。と。彼。蚊。牛。尚。姑。を
む。ま。う。あ。り。か。貪。り。漫。ふ。不。良。の。ま。う。火。起。せ。る。渠。元。と。く。後。住。う。ん。卒。ふ。山。賊。の。寨。と。う。ん
と。う。い。か。け。き。が。知。う。と。死。埋。火。と。掘。起。障。子。築。と。よ。せ。う。け。も。と。う。火
み。曳。ら。と。火。灰。燼。と。う。と。つ。と。政。牛。宴。と。そ。の。罪。あ。う。但。渠。と。う。
欲。死。遂。と。と。や。と。が。り。不。死。せ。ら。う。憐。む。や。と。あ。と。と。ど。心。よ。悔。と。と
せ。ど。か。ま。う。法。師。を。火。葬。と。と。の。聯。火。か。し。り。と。せ。ん。と。う。と。老。學。心

彼奴ハ君父の墳塋ありと爲て火燎とよべふあら様ど賊の寨と云ひ
多び。昔已とやがて不うり。ヨリ後は大さきゆゑ志がぬことん
也。彼わが仰並を建主とぞいとす。難工工事と諭せられ來つても、そ
は。ろえ。るえ。おえ。おえ。おえ。おえ。おえ。おえ。おえ。おえ。おえ。おえ。
曉く。且感。且嘆。ト件の猛火。燭す。後。火。跟。足。又先。火。立。もく
塗。を。之。を。之。宿。分。而。幽。或。為。る。大。塚。の。鄉。又。母。ウ。六。年。忌。潛。居
と。之。け。大。塚。五。作。が。父。兒。龜。篠。ハ。前。妻。の。子。う。じ。ふ。番。姓。子。ハ。異。母。乃
ま。み。あ。と。心。ざ。る。父。み。も。弟。み。も。仰。ざ。う。め。と。親。同。胞。の。篠。城。想
像。る。氣。色。ゆ。き。况。て。而。繼。母。の。千。辛。萬。苦。露。む。き。と。会。と。せ。く。ぐ。生
あ。あ。つ。を。し。よ。り。吉。髪。化。粧。よ。春。の。日。を。長。い。と。せ。く。と。情。昂。と。志。び
あ。ひ。ま。の。い。へ。秋。の。夕。を。短。い。と。母。嗚。呼。の。離。婦。う。り。と。り。ど。も。生。ぬ。う。く。と。母
親。ハ。伊。キ。く。と。目。懲。懲。と。而。傷。り。く。も。の。い。と。ヨ。ス。病。よ。う。る。ま。あ。な。され
る。も。な。く。と。母。親。ハ。こ。ち。付。麼。い。ふ。と。歎。え。う。く。と。その。日。よ。じ。て。頭。あ。づ。ぞ。湯。水。も
呑。候。下。と。後。元。を。ま。よ。り。外。よ。き。ば。し。軍。篠。ハ。ま。よ。き。と。み。の。母。の。病
皆。看。と。う。ぎ。月。來。よ。り。憲。と。入。と。そ。く。不。は。せ。も。し。も。墓。六。じ。の。火。燒。人。と。之。
そ。が。手。く。集。火。り。へ。と。く。人。目。が。う。り。の。湯。液。三。昧。母。の。う。く。火。へ。外。よ。し。く。墓
六。と。共。小。食。一。共。不。寢。る。火。入。あ。ま。と。死。樂。と。あ。ミ。名。ひ。う。る。ふ。母。親。も。

その月の晦み四十の月に入りて、率ふちもくをまじと鳥の外よ注
ひれき。何が一更送りとて、標ひ石へ苦口蒸せし。もろびるのみへ稀そえかく。
亀豫へ情願のゆく。墓六と夫婦又きらうと。一兩年を送る程ふ。嘉吉三年
の元。前管領持氏朝臣の李の元子。永壽王とアセラハ。蘿倉滅
亡のと元乳母よ棺。且信濃の山中ふ脱毛と。郡の安養寺の住僧も
みのと。ま
乳母が兄さう死り。精悍しく。とくに。辯第の近臣大井扶先と心私
合へ。年来養育あそぶ。上策八郎と風圓せり。が管領。憲忠の老臣長
尾判官昌賢と。下策東慶の諸将と相謀。遂は簾倉へ迎む。そハ
州の連御と御を。キニ。則元服させめぐらせ。左兵衛督成氏とぞやまじ
け。まよ。結城と。見せ。家臣の子達が召出させあは。ゆえ。又彼ノ事
山暮六時。かく。俄頃。大塚氏と日月と。簾倉へ。まよ。そ
濃の様井より。死んで。おん兄春王安王両公達の傳。方大塚直化が女替する
よ。公所。恩賞。奉と。昌賢が。豊嶋より。大塚人を遣。縛の虚
実を。証明せ。小直化が女児よ。既分明あり。と。夫。墓六人。と。おり。
武士ゆき。べを。めよ。あ。後。花輪。村長。死命。せ。と。帶刀。延。狩。まよ。八町四
反の莊園を。完行。と。彼地の陣代。大石兵衛尉。が。下知。兼て。勤む。死。旨
仰。是。あ。墓六。花輪。庵。又。衡門。り。やく。造り。建。奴婢。七八人。召。使。花
せ。が。か。く
客們を。遣。清。そ。が。が。田。へ。水。え。引。バ。そ。久。後。ハ。老。し。い。も。農。け。人。よ
ある。ふ。り。不。類。大。家。畜。作。成。ハ。農。小。手。東。を。付。ひ。く。信。濃。の。篤。聲。ふ。起
き。こ。で。か。不。調。大。家。畜。作。成。ハ。農。小。手。東。を。付。ひ。く。信。濃。の。篤。聲。ふ。起
行。歩。自。在。よ。ど。よ。つ。と。そ。が。修。築。廢。よ。ど。ま。と。一。年。あ。ま。と。延。む。篤。聲。ふ。起
要。果。る。よ。ど。武。藏。う。か。を。ぬ。河。ぞ。今。茲。ハ。杖。又。携。方。と。大。塚。又。赴。入。と

おのれの甲斐又のくにあ夏ハ瘧疾又たざまく秋盡るまを頭わふむと憂苦乃
ちよつてを
中の年月をちよ。嘉吉も早三年山をうりぬ世間険を為え入つて。うち
かねの
大塚と告げ下す。その憚みをすある様が爲習ひ足を駐一日より。大塚の大い
トつともをえりゆつともをも。よしの
字が一見を加へ。大塚番附と名生るめのう。定めする世の經營もありがて
スコロウシテ。重きぬまこと。よの
東へ備え織績ぐ。その麻衣の麻糸より細煙をえらび。がくと燐ふく二年の
流浪の貯禄既に竭果といふせあり。とて人折春王安王のちん弟永壽王成
ちあきなまこと。よの
彼此は潛居する。召出されよとあん。能作の温泉玉湯治を行客木か物語こまひ。
やうだんく
氏朝臣長尾昌賢が計ひよそ簾倉の武将と仰て戦ひの家臣の子とあら。
よもよ
昌賢は、召出されよとあん。能作の温泉玉湯治を行客木か物語こまひ。
やうだんく
風声大きい。春王安王の時、く僕人幾行哉ハ不自由
やうだんく
うきよ。とひくわちく。武道へ赴き妙と妙とふ對面。いのじよ簾倉へ推進に
あきよまき
春王かのち。豫見村兩のち。佩刀を成氏朝臣は敵として。父直経がうへて入
る。のちの事。のちの事。のちの事。
昌井直秀が忠れの趣旨を告ぎたまふ。進退承君は任せん爲へと夫婦處ぐ。
よもよ
起行の準備。手本來は皆承當り。由縁の里人ふみ別發告ぐ。武道の大塚を
ひきむだる。のちの事。番作。隻脚蹇と。杖をひく道を下り。房を束ね扶掖也
おもむく。のちの事。
教町すくと。を頃に二四里りく日をくづせば。名ひの外小日数積里く。八月より信
のそ
うへひきよ。郷下うほて。うのこなほ。白屋よきよ。うちく。大塚直作の人の妻
むちよ
女児ハ恙きよ。と外をまづげよ。而しが亭主と。すき翁。福徳をう夫婦どくえり。
えをひく。のちの事。のちの事。のちの事。
原来和連が彼方での後述する。あうざよ。母親ハ身ありて。二年あま。二
とを
年めめく。しそが病著を看とおへせ。女の子が不孝。掠奪へ告げ。身の傷痛。を
むこやまひき。のまもと
文塔跡。山墓六ハ丸。彈せぶるのみ。死。破落戸ぐれ入一が箇様。三元。雨宿を
まとう。のまく。さうえ。さうえ
まとう。のまく。ハ町四反の壯園をめうり。力をとえ。狩り見て。村長がうけたる。今が

大塚墓六より六を宅地ハ並桐のおり。如此とカ妙少ノ事。叮嚀ハ海にタガ
番作安東トシテ。櫻鳥ミテ。幼童條が為体。墓六が人ト有リ。又詳小同盡
あく。外面へ是れ生じ。東ノ共言葉ハ多々。頻よ疾き。此は金日。も。番
作ハ枝を立。而て嘆息。方の病者とんじひみがうして。筋麻の年がふ。而て
母の終焉。よも入。も。が。以父が忠允を墓六と。か。ふ。掠。大塚の苗字を
機。今このより死。死人。村兩の宝刀。公。も。あ。勝利。疑。と。今。も。
榮利の名。争ひ。骨肉牆を闇ぐ。が。ね。た。へ。が。せ。ふ。る。あ。え。か。と。ば。先佩刀を。簾
裏。殿。の。献。ト。じ。こ。が。娘。ハ。木。孝。の。く。そ。壇。墓。六。不。義。は。そ。勇。縛。ま。た。御。夫婦。不
り。ぬ。あ。ば。う。と。う。ね。う。さ。あ。と。い。と。咲。け。手。東。ハ。次。を。城。の。そ。そ。公。理。と。と。
ど。う。移。の。慰。そ。の。目。食。あ。し。育。一。嘆。嘆。き。り。け。ふ。よ。ま。す。う。と。番。船。ハ。墓。六。詳
處。金。故。老。の。里。人。ホ。を。置。つ。且。と。こ。う。妻。の。え。ま。ス。不。義。と。ろ。く。を。告。奉。え。公
あ。と。と。而。而。引。彼。人。を。召。集。令。件。の。る。死。ち。と。と。不。農。皆。笠
賣。よ。う。娘。ど。の。村。ハ。む。一。よ。大。塚。八。の。采。地。う。り。一旦。断。絶。を。か。と。ど。も。本
領。安。堵。の。今。小。至。く。寔。子。ハ。日。蔭。の。差。と。凋。と。卯。夫。と。う。ひ。う。ぎ。破。落。戸。の。墓
六。六。よ。と。ど。横。領。七。と。と。と。と。と。と。不。幸。や。ある。と。と。と。と。と。と。と。と。
争。ん。ハ。世。活。の。と。登。文。の。出。後。生。す。く。勞。て。功。る。き。讼。る。更。し。弱。死。を。扶。け。と。
強。き。が。折。く。ハ。東。人。の。生。平。ぞ。憎。と。る。の。墓。六。が。面。あ。く。番。船。ゆ。一。と。と。
か。と。當。村。中。が。引。業。く。養。そ。く。や。あ。と。せ。足。ハ。塞。て。も。も。ハ。折。り。く。も。繁。ま。く
つ。ひ。あ。と。一。人。が。り。ハ。僉。宿。ひ。て。貴。ま。う。ぐ。叢。く。立。地。よ。農。業。一。決。く。番。船
夫。婦。不。歎。る。け。と。か。く。例。の。里。人。ホ。ハ。番。作。が。み。ふ。そ。の。居。宅。を。ト。ゆ。ふ。墓。六。が
中。き。も。く。

宅地の前面よ。ふ。と。と。あ。ぬ。空。房。あ。と。こ。ま。空。竟。と。購。求。ふ。番。船。夫。婦。が。被

外へ稼げ。入残をせし集め。此の田園を購ふ。あこぎて番作田と唱へ。夫婦が衣食の料。小セア。是との舊主の恩人。おひ番作が薄命。相憐むのみ。あらず。増一と。ツバ。墓六夫婦。又物入名せん。との所。死る。ト。剛毅木訥へ。仁よじと。之え。聖語。二まこと。がうふ。小稱す。かう。一。番作ハ里人。ホが好意。おて富む。東あす。私ど。貪る。苦や。苗字。ハ。鄉夫。又集。と。今更。大塚。小復ん。ゆ。無益。と。とく。す。大塚上唱つ。里の縁角。小ひ蹟の師。公転。親。う。わ。恩。又報ひ。ひ。束ハ里の女の子。ホ。小絮。と。延夜。公縫。と。吉。を。教え。親。た。は。み。時。正嘉吉三。年。去。年。秋。妻。生れ。今。妻。ハ。母。起。墓。リ。テ。支。ハ。肇。集。第。八。間。モ。之。お。恩。小報ひ。ハ。里人。ホ。公。報。ハ。野。菜。の。初。穂。イ。ム。と。物。祭。贈。モ。ヨ。ス。う。ま。け。り。番作が瘡。入。又。さ。う。と。も。妻。そ。ん。ホ。小。尊。信。せ。り。ま。く。と。が。家。の。向。斜。よ。ト。居。セ。一。為。休。見。り。竹。の。と。高。い。娘。を。の。限。ア。は。

もとひのじよが村より積みて他郷へ立き是れとぞひりせけし奉り。かくも笑ひ
某寔は不肖ふしおの身しの。も父おやともゆふ篠城しの。主君しゆきんのめふ命不惜めいふ。戰たたかふ
もく元おもに君父おやの先途さと。そんるるす。また。さとひだてを擇えらばふ。父おやの机い
筆ひとあく。君父おやの首級しゅき。私隠かく。あゆむ。そとひだても親の縁ゆゑ。女房めらわ。けふふ
名告なまこ。筑摩ちくまの侍湯しお風呂。瘦やせを保養ほよう。僅すこふ平愈へいゆをすとと。行歩ゆき不
自由じゆゆ。長途ながとよる。堪たま。去歲よし入長病ながび。一年を化かる。今茲再なび
ありひ起あ。杖つえ。携た。妻め。小技こわざ。稍すこあく。仰あげ。母おやの終焉しゆえん。が娘むすめの不孝
淫奔いんしん人のよく。志しとす。嫁夫よめ。柯木こぎの刃のあすて。重職じゆしをうけめり。大福衣
賜たま。おれ。若わがあ不ふ。所ところ某父おやの忠ちゆう。命めいよろしく。春玉君はるぎょく。もへ師し。方ほう兩
の一腰いつごうを領うけ。わのくらふあつと。怨うらみとあこす。私隠かく。篠城しの。御ごと聯あわ争あ
争あ。かく嫁大婦よめの車くるま。もや番ばん。寔は不肖ふしお。且よ不孝ふこうの物ものと
思おもふ。忍しのひ。不義ふぎの嫁夫よめ。もれひ。しのぐ。も當所むとう。伏追ふせ。とみよ。是彼のせの
身み。とす。年とし。あふ。とま。及およ。序じよ。篠倉しの。訴うそ。す。公裁こうさい。仕つか。と。答こた。す。その人立ひとだて。
まく。ふ。云い。云い。と。告お。へ。龜條かめじょう。さと。小ものこもの。ひ。墓はか。六ろく。直ただ。と。呆あき。よ。と。念腸ねんぢう。を。絞く。せ。い。よ。毛け。毛け。咬か。在あ。求め。人ひと。上う。かう。ゆ。ふ。お。ひ。へ。と。この。も。べ。音おと。も。せ。ぞ。番ばん。追おい
村むら。村むら。集あつ。集あつ。折おり。木き。ど。と。墓はか。六ろく。と。面おもて。對たい。と。と。と。あ。れ。い。よ。
あ。い。よ。ひ。た。と。と。り。り。か。く。又。十。年。あ。や。う。と。の。奉。秋。と。歷。と。亨。德。三。年。十
二。月。廉。倉。み。成。氏。朝。臣。亡。父。の。怨。敵。よ。み。べ。と。と。管。領。憲。忠。也。竹。竹。
殊。莫。不。是。由。東。國。再。び。乱。と。と。次。の。年。東。正。元。年。連。滅。亡。の。年。大。ス。ふ。や。
成。氏。の。軍。敗。生。く。憲。忠。の。弟。房。頭。そ。の。臣。長。尾。昌。質。ホ。が。あ。ふ。廉。倉。が。追。
落。さ。と。下。總。許。戎。の。城。よ。龜。ア。と。合。戦。亦。復。数。年。小。及。づ。け。て。大。塙。番。
地。へ。と。と。お。ふ。か。今。戦。國。の。習。ひ。と。と。臣。う。り。の。そ。の。君。を。征。し。冠。履。所。と



黒くろふせ序じゆのととまし死死ふはくもえ薄うす命めいへ歎かたひく不足ふそくを口くち。後ごきだが不孝ふこうとまつてふ女房めいじやうみ東とうを娶むすてあり。十四五年じゅうよんねんが間あいだる。男兒おとこ三人さんじんまで産うぶせり。その襯ひら襯ひらの中なかみゆく。なまく。一人ひとりとく生うぶ育いくの。これと
 ふ東とうへ同庚どうこうも。集あつて三十さんじゅうの齡ねいよ。ス子こを。そん。難なん。こども。迷憾めいがんと。かく。即そく。死死夫ふの述懷じゆくわい。み東とうも。あまう。うみ。み。嫁よめ捨すてふ。よつ。月
 なづ。ふかく慰なぐさみ。うが。急いそ地じ。ふそくす。瀧たきの川かわ。うき。辨才天べんじてん。そく。う
 さほ古廟こびょう。靈驗れいがん。あとと入はへふ。祈ねが。應報おうほう。を。そく。と。名なふ
 あて夫おとこ告げ。次つぎの日ひ。朝あさ。起あが。得いたの朝あさ。日參にちさん。一子ひとこを。祈ねが。地
 念ねんす。今茲いま長禄元年じょうろくがつの秋あき。あまう。う。念ねんす。伏棚ふだな。房ぼう。不復ふふく。と。よ。そ。あまう。
 日ひ。解わから。時とき。かま。長禄三年じょうろくがつ。伏棚ふだな。自殺じそく。富山とやまの。あ。入いり。新しん。一
 時とき。かま。明月あかり。月影つきかげ。東とう。あま。小こ。と。そ。ひ。處ところ。宿所しゆじょ
 立駐たてす。ひま。入いり。暮くら。人ひと。乘の。乗の。人ひと。立たて。牡狗ぼけ
 あ。立たて。立たて。人ひと。暮くら。人ひと。立たて。抱いだ。人ひと。立たて。折おり。人ひと
 あ。立たて。立たて。人ひと。立たて。抱いだ。人ひと。立たて。抱いだ。人ひと。立たて。抱いだ。人ひと
 南みなみの。か。小腹おなか。難なん。と。紫むらさきの。雲くも。引ひ。地じ。を。ま。る。と。遠とお。と。ぞ。と。北きた。嬪ひめ。婿むすめ
 一個いつぽうの。山媛さんめい。楚ちよの。宋玉じょうぎ。が。夢ゆめ。と。見み。神女しんじよ。傳つた。と。か。魏ゐの。曹そう植しょく。筆ひ。託たく
 す。洛神らくじんの。頬ほほ。ふく。黑白斑毛くろしろはんもうの。老犬ろうけん。尾お。左さ。右う。小數こすう。類るい。殊こと合あわす。

右犬の事東を抱き、舞へるゝ。一ツの掛ふ投與のふるひ東へ今ある
奇特を又多く。かとなく、つむぎうちが遠くも身近さへ伸ばし、御の隠を受んと
せり。ふ隠へゆ股を漏て痕と。難物の不ぞ玉落しが、其首へ彼首うと索す。
索すであれあはとほある所へとぞうふ。そあとの天をうち仰げ、靈應忽地近
きなうすて。神女ゆ其ふ名えありど。こふ平吉みあむどとらへ。きくび離

いぬ。抱をあげく。りそく宿所は還する。片の縛の趣伏夫番僧よつびて
狗

りそく。舞とおふ神女の姿ハ山姫といふ。めぐらし。瓣才天は似たりど。まふ
授りたふる。隠ハ子能である。乞取失ひ。うき。ハ願望のうきぬ

祥みやあらん。

あらふ無り。としべ番僧沈吟ド。りそく。そきみへよる

べうと。片の神女ハ黑白斑毛の老犬又東の老犬又東と。モ。かうと
うきども大塚と更に見え。スコト名ハ一成。一成の成の字ハ則支干の成る年。

名塗自性のと。繕ト加拂。あん身まへ。今求ざく。離狗を獲。モ。念願成就の
祥み。その狗をまきし。りそく。畜。月。身。と。繪。ま。く。モ。東へ有理と

おひく。身。モ。ふ。憑。ま。く。ひ。づ。ら。わ。あ。も。と。観。番。船。が。別。じ。ご。く。身。東。へ。い。く。經。も
身。り。く。身。ま。く。寛。正。元。年。秋。七。月。戊。成。の。日。ふ。及。び。く。り。と。平。ふ

との。男。兒。を。産。る。子。兒。ハ。是。名。め。ち。ハ。大。士。の。一。人。す。く。大。塚。信。乃。と。名
シ。ハ。是。る。一。の。が。る。も。つ。ま。く。ふ。ま。ほ。後。この。卷。ふ。解。る。

右犬塚信乃が列傳ハ父祖のうへ承継す。その他ののみ者畧を見ゆ
下。七士の傳より。家譜を省畧。も。そ。人の。う。へ。を。解。ふ。も。る。也。重
文を綴。義を演る用心。一。み。あ。と。ど。省官。よ。う。く。察。ひ。ぐ。

